

# 平成30年度 姉妹校等留学プログラム

## オーストラリア姉妹校交流（ベセル校）

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

神奈川県立横浜国際高等学校/海外研修（2人）

### (2) 渡航先

国/都市：オーストラリア/ウエスタンオーストラリア州 アルバニー

外国の高校：ベセルクリスチャンスクール

### (3) 期間

平成30年7月24日～平成30年8月5日（13日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

授業参加やホームステイ等を通じて異文化理解を深め、国際交流と親善を促進する。

### (5) 活動内容

<3月>

参加希望生徒・保護者対象の説明会を実施

<4月>

参加生徒の選考、決定、事前学習開始

<5月>

・事前学習（週1回）

現地でのプレゼンテーション準備、現地情報の提供、英会話練習等

・参加生徒・保護者対象説明会

<6月>

事前学習（週1回）

現地でのプレゼンテーション準備、事前学習冊子作成、英会話練習等

<7月>

・事前学習（週1回）

現地でのパフォーマンス練習、リハーサル等

・参加生徒・保護者対象直前説明会

<7月24日～8月5日> 訪問

<8、9月>

事後学習、報告会、文集・パネルの作成

## (6)実績・成果

### ○派遣高校生 ASさん

私はオーストラリアのアルバニーにあるベセルクリスチャンスクールと行っている姉妹校交流に参加しました。ベセルでは現地の生徒が実際に受けている授業と一緒に受け、日本と授業のやり方が全く違うということを知りました。日本では先生の講義を聞いてノートを取るスタイルが一般的ですが、ベセルでは生徒同士がディスカッションを行いわからないところだけを先生に聞くというスタイルでした。一人一人が自分の意見をしっかり持って発言していたため、ディスカッションがスムーズに進み、発言することの重要性を学びました。また、ベセルでは一人一台 iPad を持ち、それを使って各自プレゼンテーションの準備・発表を行っていたり、LED ライトと導線を使い一つの作品を作り上げるといったテクノロジーの授業があったりしました。生徒だけでなく、先生もタッチパネル式スクリーンを使い授業を行っていました。このような授業を行うことで、小さい頃からテクノロジーに触れ将来就職した時にすぐに働けるようになるという聞き、日本ではこのような授業をやっているところをあまり見たことがなかったので驚きました。学校以外の時間はホストファミリーと過ごし現地の生活を体験しました。その生活の中で印象に残ったことは自然をととても大切にしていることです。お店などに森林保護募金があると必ず募金をしたり、海の清掃活動などに多くの人に参加したりしていました。また、テレビやラジオでもニュースでは自然についてよく取り上げていて特番なども多く、オーストラリアでは自然保護に対しての意識がとても高かったです。

私は今回オーストラリアで学んだことをまずは身近にいる人に伝え、SNS などを使い発信し、日本でも取り入れることができるものがないかを探して行きたいと考えています。特に自然保護の取り組みについては日本が吸収できることは多くあると思います。日本では自然保護という言葉は皆知っていても、一人一人が行動を起こすということはありません。そのため、これからは日本の自然保護活動がどのようなものなのかを知り、オーストラリアで行っているものと比較していきたいです。そうすることでそれぞれの良い点や悪い点を知ることができ、お互いの良い点を組み合わせればより良い自然保護活動になるのではないかと考えています。また、オーストラリアの授業を受けてみて、日本でも話し合いを多くする授業を取り入れた方がいいのではないかと考えています。日本では多くの方が人の意見に流されやすかったり、周りを気にして発言できなかったりします。そのため、オーストラリアのようなディスカッションを多く取り入れた授業を小さい頃に行うことで自分の意見を発信できるようになると思います。横浜国際高校ではディスカッションを取り入れている授業もありますが、他の高校ではまだあまり浸透していないそうなので、多くの高校に広まるような方法をこれから考えていきたいです。

最後になりますが、今回のオーストラリア姉妹校交流を支援してくださった方々のおかげでテレビやインターネットを通してだけでは知ることができないことをたくさん学ぶことができました。これからは学んだことを日本で発信し、これからの人生に生かしていきたいと思っています。貴重な経験をたくさんさせていただき本当にありがとうございました。





## ○派遣高校生 YKさん

私は今回、姉妹校交流としてオーストラリアのアルバニーを訪れました。海外訪問は私にとって今回が初めての経験だったため、大きな不安を抱えていましたが、現地での約2週間の生活を通して日本では気づくことのできない発見や、今後の人生において心がけてくべきことを改めて実感することができました。

この研修で私が学んだことは大きく3つあります。まず一つ目は、言語運用能力の必要性です。海外で生活するにあたり、現地の人とコミュニケーションを取る際に必要となるものの一つがこの言語運用能力です。もちろん、現地での生活で、英語や他の言語を完璧に話せることが求められるわけではなく、また、話せなくとも現代の技術を使えば困ることはないかもしれません。実際に私もホストファミリーとインターネットの翻訳機能を用いて単語の意味を共有したりすることがあり、とても便利なものでした。しかし、自分の伝えたいことが一番わかるのは自分自身であり、それをダイレクトに伝えることができる手段が言語だと私は考えます。自分の語彙力やスピーキング力を高めれば高めるほど、より忠実に自分の考えを相手に伝えることができると感じました。次に、日本についての知識を持つことがとても大切だと思いました。ホストファミリーや現地の人々に文化を紹介するためにはもちろん自国の知識が必要です。しかし、それだけでなく、相手の国についての知識を得た時に、日本と比較して、日本ではどうだろうと考えることが同時に必要になると感じたからです。それを考えることによって、相手の国と日本の意外な共通点や相違点を見つけることができます。海外を訪れているからといって、相手の国について知るだけでは不十分です。受け身にならずに、日本についても相手と同様に発信して初めて、交流が実現されると思います。また、お互いを理解しようとする心の重要性も学びました。今回の姉妹校訪問、ホームステイを通して、普段異なる文化の中で過ごす者同士が、共同生活をするにあたって、今までの当たり前が覆されることは多くありました。しかしそこで、自分の文化を軸として考えて相手を受け入れないような姿勢をとることは、文化交流には決して繋がることはなく、ただ一方的な文化の押し付けになってしまいます。自分の当たり前を他人の当たり前と思わず、お互いを分かり合おうと努力することがどれだけ大切かを学ぶことができました。

研修を通して学んだこれらのことは、今後の生活において活かすべき重要なことを気づかせてくれました。まず、言語運用能力の必要性を知ったことで、外国語学習により力を注ぎ自分の意思や考えを自分の言葉で伝えられるようにすることが私の今後の大きな目標となりました。それを実現するために、学校生活の中で積極的に英語や第二外国語を話す機会を作り、語彙力を身につけて、実用的な言語運用能力を習得していきたいです。また、日本の知識を増やしていくために、今後は日頃のニュースにより耳を傾け、生活の中で日本に詳しくなれるようにしていきたいと思います。他にも、年中行事など、日本の慣習とは言いつつもその起源や歴史を知らないものを自分から調べて知識として蓄えられるように努力していきます。それに加えて、自分が国際社会で活躍したいという夢を叶えるにあたり、お互いを尊重し合って受け入れる姿勢でいることが非常に大切になります。今回の研修で学

んだその姿勢を、数年後、社会に出た時にも変わらず心に留めておくことで、異文化出身の方々とお互いの良い点を共有して、より良いものが作り上げられるようにしていきます。

そして、最後に、私が自分自身の中でこのような大きな成果が得られたのは今回のオーストラリア姉妹校交流に参加したからできたことです。今回の研修での気づきを通して、今後の自分を変えるきっかけにもなりました。現地での刺激と経験を決して忘れることなく、これからも国際交流活動に貢献できるように努めていきます。この機会を与えてくださった方々や様々な面で支援してくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

